

SMR リニア新幹線

ストロー効果 ↔ 地方の活性化

「都市の豊かさを地方へ」という価値観では、大都市に人が集まる。

※大量生産・大量消費、効率化、経済的豊かさ、便利さが重視される社会では、都市の方が強い

現状のままだと、ストロー効果が心配

【目指すべき方向性】
多様性、地方毎の個性、Quality of Lifeを重視する**価値観**
(これが地方に人を引き寄せる力になる。)

多様性や地方の個性を生み出す政策
(価値観は政策によって創出できる)

この価値は、次の時代に向けた競争力になるのでは？
世界に向けてどう勝負するかをダイレクトに考えるより、足元を大切にすることが競争力になる時代が来るだろう。

(むしろ、そういう価値観を世界に向けて牽引していき、良好な国土や地球環境をつくる行為が競争力になるという土俵をつくるのが重要)

多様性、地方毎の個性とは？ 新たに作るのではなく、地域の環境、気候、文化等と密接に結び付いた産業、暮らし方、その表象としての景観

→持続可能な暮らし、持続可能な発展

中山間地域の魅力を引き出すために (農村、食糧分野)

世界的な認識

大量生産・大量消費のための農業が地域の均質化や環境負荷の増大、中山間地域の過疎化につながっている

例) ・品種の減少と困り込み

流通しやすいよう均質になるように調整された品種が台頭し、農薬や化学肥料とセットになって一部の企業にコントロールされている。
→栽培種の地域性の減少、調整された品種に栽培環境を合わせるため農業と地域環境の乖離

・単一栽培や機械化

効率化のために単一栽培を行い、機械化を促進。
→生物多様性の減少、CO2排出の増大

▶ **農村環境は、流通や消費を含めて考えないといけないという認識**

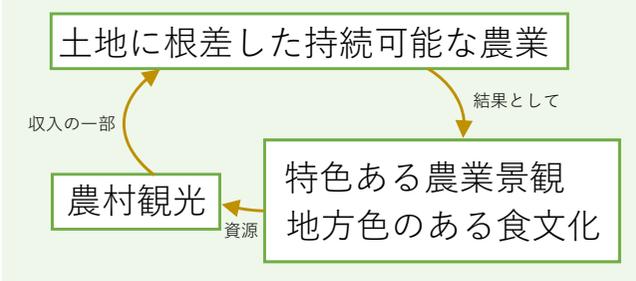
※規模の勝負下では中山間地域は「条件不利地」に

※これらを結び付ける根本となる理念がない
※農業と土地の結びつきを無視しているの、すべてが表層的、上滑りな状態

実現するための政策 (方向性)

農業	加工・流通	農村
農業環境政策へ転換	大手企業の仕入れ、集散市場体系の見直し	都会の豊かさを地方へという過疎対策から脱却
土地とのつながりを担保する 仕組みの構築 ※それぞれの地域が頑張れば解決する問題ではない		

目指すべき姿



現状	農業	農産物	景観	観光
	↓ 効率化	↓ ブランド化	↓ 文化財	↓ 交流、集客

【参考】EUの共通農業政策

1985年に環境破壊の要因の一つに共通農業政策があることを認め、約20年かけて制度改革
→**持続可能性、生物多様性などを重視**

第一の柱 農産物の生産
第二の柱 農村発展

補助金を受け取ろうとするプロジェクトに、環境要件

直接支払の条件
グリーンング
環境支払い
Ex.作物の多様化
伝統種の栽培
環境用地の設置
(段畑の石垣なども)

農業という私的経済活動に介入
(最低限の基準の設定+誘導措置)

※環境に配慮した農業によって得られる、生物多様性の確保、気候変動の抑制、景観や文化の保全などを「公共財」として位置付け、それを公的介入の根拠に
(公共財は農業者だけのものではなく、かつ、自由経済活動のもとでは供給過少になるため)

テクノロジーの使いどころ

欲望を満たすために技術を使うのではなく、土地とのつながりのある農業を手助けするために使う

【これまで】技術を使うために画一化

Ex. 自然環境と切り離し栽培をコントロール

大量生産、流通
規格化された野菜の加工

【これから】

大量の情報を処理し、個別に対応できる時代